

岡田公民館

2023年2月4日(土)5日(日)

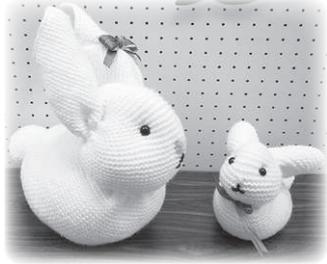
新春サークル発表会 (展示)

報 館 おただ

やあ今日は!
明るいまはつ楽しい仲間


戻りつつある 地域の「コミュニケーション」

岡田公民館において、3年ぶりに「新春サークル発表会」が開催され、16団体の作品がにぎやかに展示されました。昨年は「岡田公民館・作品展示会」として小規模に開催されましたが、今年はコロナ禍以前に少し近づくことができました。また、昨秋各町会の文化祭が中止となったため、町会サークルの作品も展示して頂きました。



開催日の2日間は天候にも恵まれ、140名のお客様にお越し頂きました。

作品を見ながらの楽しいそうなお話も聞かれ、ここで久しぶりに会ったお仲間との会話も弾み、賑やかさが戻りつつあることを感じました。来場者のお話では出品者の方と話せてよかった、写真の撮り方が巧かった、サークルに入るにはどうするのか等でした。また、以前はステージ発表もあってもっと楽しかったとお話も聞かれました。

コロナ禍から解放され、多くの活動が回復する事への期待が見受けられました。地域の皆様同士の繋がりが早く戻ること願ってやみません。

(取材・文 三枝委員)



3年ぶりの陶芸作品を見る



ひろば利用者の写真集



みんなて準備



アート作品を見学しながら談笑



岡田小学校作品



ライトアップされた顔アート

健康づくり推進員会・公開講座
「タオルで簡単！ストレッチ
体幹トレーニング」

3月1日(水) 岡田公民館において標記の講座が開かれました。30人の参加者を迎えた。活気ある講座となりました。スポーツトレーナー北原幸恵先生の明るいき指導で、参加者はみんな笑顔になりました。椅子に掛けたままタオルを使った上半身・下半身のトレーニング方法を教えて頂きました。それを通して自身の体の不具合の原因などの発見もありました。1時間があっという間に過ぎましたが、後からじんわり心地よい筋肉の疲れを感じました。



松本市全体としての「健康づくり推進員会」は本年度末で活動を終了しますが、「岡田地区健康づくり推進員会」は活動を継続します。地域の皆様の健康と明るい笑顔を目指します！

(三枝委員)

岡田 ぼっと ニュース

道祖神と三九郎

●岡田町●

道祖神とか道陸神の漢字や男女二神を石に刻んだ道祖神が岡田地区にも多数ある。道祖神は旅の安全、防疫、魔除、縁結び、子授け、安産、子孫繁栄等々を祈願する民間信仰で最も親しまれた神様である。



三九郎はどんどど焼き、左義長とも言い、正月飾りを焼く

道祖神の火祭り、歳神様の送り火とも言われる。三九郎は中信地区の呼び名で、道祖神祭りをする神主福間三九郎の名にちなんだとか、凶作・重税・疫病の三苦勞を払うためとか諸説あるが定説はない。小正月に繭玉や農産物の形の団子を柳にさして神棚に供えて豊作を祈った。三九郎で

焼いた団子を食べて無病息災に、書初めの紙を燃やすと字が上達するとも言われている。

七十年ほど前は、12月初めから男子小学生は三九郎の材料を集めた。松や雑木を切り葎や藁を集めて小屋を造り暖をとった。正月飾りを集めると小中大の櫓を作った。三九郎当日、会場に道祖神の祠を安置し「三九郎三九郎翁様婆様孫連れて団子焼きにきておくれ」と

催して歩いた。火をつ

けようとする参加者と小学生の攻防戦の末火をつけた。

翌日、木版刷りの道祖神のお札とお供えを各戸に配りお賽銭を戴いて慰勞会をし学用品を分配した。三九郎によって道具の使い方、協力、忍耐力、想像力等の力が育った。社会の変化とともに道祖神信仰や三九郎も様変わりしてきている現状である。

(岡田町 赤羽 清)

2023年2月11日(土)

第25回福祉を語るつどい 「考えてみよう!! 岡田の移動支援」

岡田地区は東西で大きく交通事情が異なる地区の一つです。数年後を見越しこれから考えていく必要があります。

そこで先に乗り合いタクシーなどの取り組みを行っている白坂地区放光寺町会「お互いさまタクシー」及び島内川東地域「島内川東乗合タクシー」のお話を聞く機会がありました。

両地区のお話を聞き限り行政やタクシー会社、町内の意見をまとめて運用までに数年かかっており始めるまでのご苦勞がうかがえました。

お話を聞いたあとは岡田の現状などを話し合う機会があり様々な意見が出ました。一以下

- ・今は大丈夫でも10年後を見据えて今のうちから考える必要がある
- ・10年後、20年後の自分を想定できるか
- ・岡田は南北の移動はよいが東西の移動手段がない
- ・町会ごとに考える必要がある
- ・岡田独自のやり方を考える必要がある
- ・バス停まで行かない人がいるので必要
- ・免許を返納した人には必要
- ・まずやってみようという気持ちが必要
- ・必要な人の立場をどう理解してもらえるか
- ・高齢化が進む中で急務な問題
- ・個人、町会の負担が少なく利用可能な仕組みづくりができればよいと思う

今は問題を感じない世代の方でもぜひ当事者意識を持ってほしいと思います。

(取材・文 浅輪委員)

国道143号線を北上、六助池を過ぎた辺りからの景色は真っ赤になった赤松の森、そして倒木も目立った松枯れの森、そして皆伐を経てこんなにも空は広がったのかと思わせるほど、ここ10年ほどで山浦地区の景観は大きく変化してきました。

生活雑記 10年後に備えて 山浦 大池 満

小さな町会のメリットとしてはお互いの顔の見える関係が築かれ、それがスムーズな町会運営に結び付いていると感じていますが、一方で不安な面もあ

動しんでいます。しかしながら単純計算では毎年平均年齢が上がっていくわけですから、いくら生涯現役とは言ってもこの先10年後はどうなっているのか。山々は植林が行われており、10年もすると青々とした森が広がっていると思

ります。山浦町会の高齢化率は38・8パーセント(令和4年4月現在)と岡田地区では2番目に高い状態で高齢化が進んでいます。皆さん生涯現役の方が多く朝はやくから夕方遅くまで畑仕事に

いますが、果たして町会は残っているでしょうか。現状の町会活動で良いのか、町会活動自体を今から考えていく必要があると考えます。10年ひと昔、あつという間にその時は